

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(市町総括表)
【単独・連携事業】

市町名	矢板市
-----	-----

(単位:円)

No.	単位事業名		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	学生団体による「高校生 の居場所づくり」事業	総事業費			622,002	339,633	39,520	1,001,155
		うち市町支出額			600,000	300,000	0	900,000
		うち県交付金			300,000	150,000	0	450,000
2	「環境文化都市やいた 創造会議」事業	総事業費				1,099,222	1,097,794	2,197,016
		うち市町支出額				1,027,000	1,020,000	2,047,000
		うち県交付金				513,500	510,000	1,023,500
3	「矢板片岡ロードレー ス」事業	総事業費				5,580,000	0	5,580,000
		うち市町支出額				2,000,000	0	2,000,000
		うち県交付金				1,000,000	0	1,000,000
4	「日本遺産」プロモー ション事業	総事業費				4,871,314	3,747,415	8,618,729
		うち市町支出額				4,500,000	3,747,396	8,247,396
		うち県交付金				1,000,000	1,000,000	2,000,000
5	矢板駅前イルミネーショ ン事業	総事業費					972,623	972,623
		うち市町支出額					900,000	900,000
		うち県交付金					450,000	450,000
6	片岡駅前イルミネーショ ン事業	総事業費					0	0
		うち市町支出額					0	0
		うち県交付金					0	0
7	ふるさとガイド推進事業	総事業費					171,525	171,525
		うち市町支出額					30,000	30,000
		うち県交付金					15,000	15,000
市町計		総事業費	0	0	622,002	11,890,169	6,028,877	18,541,048
		うち市町支出額	0	0	600,000	7,827,000	5,697,396	14,124,396
		うち県交付金	0	0	300,000	2,663,500	1,975,000	4,938,500

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調書)
【単独事業】

市町名	矢板市
事業名	学生団体による「高校生の居場所づくり」事業
事業主体の名称	Yaita All Directions
代表者の名称	代表 越膳 寧々
事業主体の所在	矢板市本町5-4
事業主体の概要	<p>・団体の目的:「高校生の居場所づくり」を目指して、高校生が主体的に活動する。また、高校生が地域の方たちと関わり合いながら、矢板市の魅力に関する情報発信を行うことで、地域の活性化を図る。</p> <p>・設立年月日:平成30年7月</p> <p>・構成員等:矢板市内に居住・在学する高校生および本会の目的に賛同する高校生</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>矢板市では、中心市街地の空洞化や少子高齢化が進行していることから、地域の活力低下などが課題となっている。そこで、市内の3高校の生徒が中心となり立ち上げる学生団体「Yaita All Directions」の取り組みを通じて、地域活性化を図るとともに、地域の担い手としての育成を目指す。</p>
事業目的	<p>「高校生の居場所づくり」を目指した活動を支援する。 また、高校生が矢板市の魅力に関する情報発信を行うことで、地域の活性化を図る。</p>
事業概要	<p>矢板市主催のまちづくりを学ぶ「矢板武塾」において、平成28年度に市内の中学3年生～高校2年生に行ったアンケートによると、「矢板駅周辺に高校生が勉強しやすい場所(個人・集団スペースあり)や交流する場所がほしい」との意見が大半となった。そのため、将来的に高校生が気軽に集うことのできる「高校生の居場所づくり」を考える必要がある。</p> <p>今回、立ち上げる団体では、高校生が主体的にまちを盛り上げる取り組みを行い、活動を通じて「居場所」を体感するとともに、活動拠点を設け、その場所がメンバー以外も含め、高校生の集まる「居場所」となっていくようにしたい。3年目となる今年度は、拠点での活動を継続する。</p> <p>【2020年度】</p> <p>①メンバーの拡充 ・団体の紹介動画やポスター作成によるPRを行い、メンバーの拡充を目指した。</p> <p>②まちあるきマップ第3弾の検討 ・次年度でのまちあるきマップの配布を目指し、内容を検討した。</p> <p>③その他 ・SNSを活用した団体及び地域に関する情報発信</p> <p>【2021年度以降】</p> <p>・拠点にて、活動の継続および新規事業を実施する。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>目標:各世代を支援する KPI:児童生徒におけるふるさとへの愛着度(%) 現状値(H26) 実績なし → 90.0(R2)</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	2018年度	2019年度	2020年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①まちあるきマップの作成 ②団体のPR活動(イベントでの出店) ③高校生カフェに向けた準備 ④SNSを活用した情報発信	①団体のPR活動・メンバーの拡充 ②まちあるきマップの作成 ③高校生カフェに向けた準備・実施 ④SNSを活用した情報発信	①団体のPR活動・メンバーの拡充 ②団体への視察 ③イベントの計画・検討 ④まちあるきマップの検討 ⑤SNSを活用した情報発信		①団体のPR活動・メンバーの拡充 ②団体への視察 ③イベントの計画・検討 ④SNSを活用した情報発信
事業費	622,002	339,633	39,520	1,001,155	140,000
市町支出金(ソフト事業分)	600,000	300,000	0	900,000	100,000
うち県交付金	300,000	150,000	0	450,000	
市町支出金(ハード事業分)	0	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	0	
その他自主財源等	22,002	39,633	39,520	101,155	40,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	商工観光課 商工担当
担当者名	主任 相馬 智美
電話	0287-43-6211
FAX	0287-44-3324
E-mail	svoukou@city.yaita.tochigi.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画実績書(単位事業収支精算書)

市町名	矢板市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	学生団体による「高校生の居場所づくり」事業	
対象年度	2020	年度

1 収入の部

科目	精算額	備考
雑収入	1	預金利息
繰越金	39,519	前年度繰越金
計	39,520	

2 支出の部

科目	精算額	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
			県交付金		
消耗品費	0	0	0	0	
印刷製本費	0	0	0	0	
通信運搬費	0	0	0	0	
使用料及び賃借料	0	0	0	0	
保険料	4,200	0	0	4,200	ボランティア保険料
備品購入費	0	0	0	0	
委託料	0	0	0	0	
次年度繰越金	35,320	0	0	35,320	
				0	
				0	
計	39,520	0	0	39,520	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調書)
【単独事業】

市 町 名	矢板市
事 業 名	「環境文化都市やいた創造会議」事業
事業主体の名称	環境文化都市やいた創造会議
代表者の名称	理事長 小川 修市
事業主体の所在	矢板市本町5-4
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的:市内の環境保全や環境問題について啓発し、市民の自主的な環境保全活動を活性化させることを目的としている。 ・設立年月日:平成27年11月 ・構成員等:市内を中心とした有志、大学関係者等
当該事業に係る地域の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・矢板市は、広大な里山林や水資源に恵まれた地域であるが、日常生活の中でそのような環境に親しむための場が少なく、なっているのが現状である。 ・環境保全意識や郷土愛醸成のためには、市民自らが地域の「ヒト・モノ・コト」を再発見することが必要であるが、現状そのような機会は少ない。
事業目的	<p>「環境文化都市やいた創造会議」が実施する環境教育・環境保全活動を支援すること。 地域住民や地域外からの来訪者が市内の恵まれた自然環境や地域の「ヒト・モノ・コト」の再発見を通じて、地域の活性化を図ること。 事業を実施する組織の支援を通じて、市民の自主的で持続的な活動を促していくこと。</p>
事業概要	<p>【2020年度】</p> <p>①総会の実施</p> <p>②新規事業として、容り法の改正により、7月からレジ袋の有料化が義務化されることをきっかけとして、ごみ排出量削減のための普及啓発イベントや啓発物品の配布キャンペーンを実施することを計画している。具体的には、市内の小学4年生から小学6年生及び中学生を対象にクールチョイスのロゴがプリントしてあるエコバッグを購入し、配布をした。</p> <p>【2021年度以降】</p> <p>上記内容および新規事業を検討しながら、引き続き「ヒト・モノ・コト」の再発見に繋がるような活動を継続する。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>目標:各世代を支援する KPI:児童生徒におけるふるさとへの愛着度(%) 現状値(H26) 実績なし → 90.0(R2)</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

事業内容		2019年度	2020年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
		①総会の実施 ②生き物マップ作成 ③環境学習イベントの実施	①総会の実施 ②ゴミ減・温暖化対策啓発		
事業費		1,099,222	1,097,794	2,197,016	1,150,000
市町支出金 (ソフト事業分)		1,027,000	1,020,000	2,047,000	1,020,000
うち県交付金		513,500	510,000	1,023,500	
市町支出金 (ハード事業分)	0	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	0	
その他自主財源等	0	72,222	77,794	150,016	130,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	くらし安全環境課 環境担当
担当者名	山下 友太郎
電話	0287-43-6755
FAX	
E-mail	kankyo@city.yaita.tochigi.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業収支精算書)

市町名	矢板市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	「環境文化都市やいた創造会議」事業	
対象年度	2020	年度

1 収入の部

科目	精算額	備考
市補助金	1,020,000	
前年度繰越金	77,794	
計	1,097,794	

2 支出の部

科目	精算額	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
			県交付金		
通信運搬費	550	550	275		振込手数料
消耗品費	1,026,080	1,019,450	509,725	6,630	エコバッグ制作・購入代
次年度繰越金	71,164	0	0	71,164	
計	1,097,794	1,020,000	510,000	77,794	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調書)
【単独事業】

市 町 名	矢板市
事 業 名	「日本遺産」プロモーション事業
事業主体の名称	泉交流協議会
代表者の名称	会長 森戸康雄
事業主体の所在	矢板市本町5番4号
事業主体の概要	<p>・団体の目的:魅力ある地域づくりのため、泉地区を中心とした観光・文化施設等のネットワーク化を推進し、地域間交流や情報発信等を実施することを目的とする。</p> <p>・設立年月日:平成23年11月30日</p> <p>・構成員等:活動の趣旨に賛同する企業・団体等</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>平成27年度から「HAPPY HAPPY Project」として情報誌やホームページ、SNS等でイベントの告知や周知を実施したことにより、八方ヶ原や県民の森のエリアの観光客も年々増加している。また、市内の「山縣有朋記念館」「矢板武旧宅」「山縣農場」「矢板のリンゴ」が構成文化財となっている「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～」が平成30年5月に日本遺産に認定された。</p> <p>このような状況の中、観光客による経済効果を高めるため、市街地への誘客が課題となっている。</p>
事業目的	「HAPPY HAPPY Project」と「日本遺産」の相乗効果により、相互にプロモーションをすることで周遊を促し、滞在時間を延ばすとともに、市内店舗・施設へ立寄っていただくための仕掛けを行い、経済波及効果を高めるとともに来訪者の行動分析を目的とする。
事業概要	<p>①Instagramによるプロモーション事業 若い世代や海外で一番選ばれているツールであるInstagramを活用し、より多くの方に矢板市の観光や見どころ、グルメ情報などを発信し、矢板市への来訪を促した。</p> <p>②ハイウエーウォーカー等冊子掲載によるプロモーション事業 矢板北スマートICの供用開始(令和3年度3月)に合わせたハイウエーウォーカー等の冊子に日本遺産等の観光情報を掲載することで、高速道路利用者等へ矢板市観光地への立寄りを促した。</p> <p>③矢板のグルメ紹介冊子の増刷、配付事業 観光の重要な要素である「食」に特化したグルメ冊子(令和元年度作成)を増刷、配付することで、来訪者へ市街店舗・施設に立寄るよう促した。</p> <p>④クーポン券×スタンプラリー市内周遊事業 城の湯温泉等のクーポン券が付いたチラシを配布することで、日本遺産等の観光地来訪者へ市街店舗や施設への立寄りを促す。併せて、日本遺産と連携する携帯アプリ「ココシル」の用いスタンプラリーを行うことで、市内周遊を促進し経済波及効果を高めるとともに、来訪者の行動分析を行った。</p> <p>【2021年度以降】 Instagramによるプロモーション等、泉地区における観光客の誘客促進活動を継続する。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>目標:来てもらう、住んでもらう人の流れをつくる</p> <p>KPI:交流人口数(人) 1,458,772(H26)⇒2,000,000(R2) [R1実績:1,926,000]</p> <p>道の駅やいた関連施設利用者数(人) 974,000(H26)⇒1,200,000(R2) [R1実績:1,282,000]</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	2019年度	2020年度	支援期間の事業費計	支援期間の翌年度
事業内容	①Instagramによるプロモーション ②矢板のグルメ紹介冊子の制作 ③市内周遊促進のためのクーポン券発行事業	①Instagramによるプロモーション ②ハイウエーウォーカー等によるプロモーション ③矢板のグルメ紹介冊子の増刷 ④市内周遊促進のためのクーポン券×スタンプラリー		①Instagramによるプロモーション
事業費	4,871,314	3,747,415	8,618,729	
市町支出金(ソフト事業分)	4,500,000	3,747,396	8,247,396	
うち県交付金	1,000,000	1,000,000	2,000,000	
市町支出金(ハード事業分)			0	
うち県交付金			0	
その他自主財源等	0	371,314	371,333	0

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	商工林業観光課 観光スポーツツーリズム担当
担当者名	小川 靖
電話	0287-43-6211
FAX	0287-44-3324
E-mail	svoukou@city.vaita.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業収支精算書)

市町名	矢板市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	「日本遺産」プロモーション事業	
対象年度	2020	年度

1 収入の部

科目	精算額	備考
補助金	3,747,396	市補助金
雑収入	19	利息
計	3,747,415	

2 支出の部

科目	精算額	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
			県交付金		
報償費	82,060	82,060	0	0	④スタンプラリー賞品
印刷製本費	518,100	518,100	250,000	0	③矢板グルメ紹介冊子増刷
通信運搬費	28,560	28,560	0	0	パンフレット等送料
手数料	2,970	2,951	0	19	振込手数料
委託料	3,115,325	3,115,325	750,000	0	②ハイウエーウォーカ等プロモーション業務委託 ④クーポン券×スタンプラリー業務委託
公課費	400	400	0	0	印紙代
計	3,747,415	3,747,396	1,000,000	19	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調書)
【単独事業】

市町名	矢板市
事業名	矢板駅前イルミネーション事業
事業主体の名称	矢板まちづくり研究会
代表者の名称	代表者 高柳 眞知子
事業主体の所在	矢板市扇町1-13-1 ツーリングビル2階
事業主体の概要	<p>・団体の目的: 矢板のまちとひとを元気にするため、まちづくり活動を行う。</p> <p>・設立年月日: 平成18年2月26日</p> <p>・構成員等: 活動の趣旨に賛同する個人(会員数21名)</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>矢板市の玄関口である矢板駅の活性化、および地域住民にますます身近な存在となり、地域住民の癒しの場、ふれあいの場として活用することが必要とされている。</p> <p>これまで、市民と駅前周辺の事業主を中心に構成される矢板まちづくり協議会が、2008年より事業を実施しており、矢板の冬の風物誌として定着しているものの、協議会の構成員の高齢化なども顕在化しており、事業に参画する新たな人材の確保が課題となっている。</p> <p>上記の背景のもと、近年では県立矢板高校の電子技術研究部と連携して、イルミネーションの作成を行うなど、新たな担い手の確保や、多主体との連携を進めている。</p> <p>矢板駅は、一般の通勤者に加え、市内に3校ある高校に通学する生徒が多数利用することから、将来的なU/Jターンを促すためにも、地域を身近に感じてもらうような活動が不可欠といえる。</p>
事業目的	<p>矢板市の玄関である矢板駅前を、地域住民が主体となってイルミネーションで彩ることにより、矢板市の住民一人ひとりが矢板市に愛着と誇りを持ち、矢板市民という地域連帯意識を深め、「健康で明るく住み良い地域づくり」に寄与するとともに、市外から矢板市へ通学する生徒に対しても、高校生が参画した駅前でのイベントを実施することで、様々な利用者に対して、地域への帰属意識を高めることを目的とする。</p>
事業概要	<p>JR矢板駅西口広場において、イルミネーションの点灯を実施した。会員のほか栃木県立矢板高校電子科が協力し、イルミネーションの制作および設置を行った。</p> <p>場所 矢板駅前西口広場 点灯期間 11月下旬から翌年1月上旬 点灯時間 17:30から23:30まで 電球数 約3万球</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽に合わせて動くイルミネーション 矢板高校電子科制作のLED設置 <p>【2021年度以降】 上記内容事業を継続し、地域住民と近隣高校生との交流を図る。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>目標: 来てもらう、住んでもらう人の流れをつくる</p> <p>KPI: 交流人口数(人) 1458,772(H26)⇒2,000,000(R2) [R1実績: 1,926,000]</p> <p>道の駅やいた関連施設利用者数(人) 974,000(H26)⇒1,200,000(R2) [R1実績: 1,282,000]</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

事業内容	2020年度	支援期間の事業費計	支援期間の翌年度
事業内容	①「矢板駅前イルミネーション事業」実施 ②地域住民の交流		①「矢板駅前イルミネーション事業」実施 ②地域住民の交流
事業費	972,623	972,623	972,623
市町支出金(ソフト事業分)	900,000	900,000	900,000
うち県交付金	450,000	450,000	
市町支出金(ハード事業分)	0	0	0
うち県交付金	0	0	
その他自主財源等	0	72,623	72,623

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	商工観光課 観光スポーツツーリズム担当
担当者名	阿久澤 大智
電話	0287-43-6211
FAX	0287-44-3324
E-mail	svoukou@city.yaita.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業収支精算書)

市町名	矢板市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	矢板駅前イルミネーション事業	
対象年度	2020	年度

1 収入の部

科目	精算額	備考
補助金	900,000	市補助金
負担金	72,623	矢板まちづくり研究所負担金
計	972,623	

2 支出の部

科目	精算額	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		県交付金			
報償費	0	0	0	0	点灯式出演者謝礼
消耗品費	55,695	3,500	1,750	52,195	イルミネーションほか消耗品購入
光熱水費	20,428	0	0	20,428	イルミネーション電気代
委託料	896,500	896,500	448,250	0	イルミネーション設置委託料
				0	
				0	
				0	
計	972,623	900,000	450,000	72,623	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調書)
【単独事業】

市町名	矢板市
事業名	片岡駅前イルミネーション事業
事業主体の名称	片岡地区コミュニティ推進協議会
代表者の名称	会長 江面 晃一
事業主体の所在	矢板市片岡2098番地3
事業主体の概要	<p>・団体の目的:地区住民の自治精神を基として関係諸機関、団体との連携を密にし、住民の自主参加を促し、地域連帯意識を深め、健康で文化的な生活が営めるような地域づくりをすることを目的とする。</p> <p>・設立年月日:昭和53年4月19日</p> <p>・構成員等:片岡地区各行政区の代表(役員数14名)</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>本事業の主体となる片岡地区コミュニティ推進協議会は、平成20年度から片岡地区の玄関である片岡駅前の活性化を図るため、イルミネーションで駅前を明るく彩る事業に取り組んでいる。</p> <p>平成26年度に片岡駅がリニューアルし、駅西口に広場が設けられ、そこを活用したロードバイクのプロレースが市民の協力のもと開催されるなど、片岡駅は地域住民にとって、中心となる集いの場としての機能が高まっているといえる。</p> <p>このような背景のもと、平成31年からは規模を拡大し、飲食ブースや体験ブースを地域の事業者や地域おこし協力隊の協力のもと拡充するなどした結果、多くの地域住民が集う交流の場に成長している。</p> <p>今後は、関わる地域住民を増やすことで、さらなる活性化や、冬季・夜間の防犯意識の向上が求められている。</p>
事業目的	<p>片岡地区の玄関である片岡駅前を地域住民が主体となってイルミネーションで彩ることにより、片岡地区の住民一人ひとりが片岡地区に愛着と誇りを持ち、片岡地区の住民という地域連帯意識を深め、「健康で明るく住み良い地域づくり」に寄与することを目的とする。</p>
事業概要	<p>事業の実施に向けた会合等は実施したものの、新型コロナウイルス禍の状況を踏まえ、事業の実施を断念した。</p> <p>【2021年度以降】 上記事業を継続し、地域住民主体による交流の場づくりを推進する。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>目標:来てもらう、住んでもらう人の流れをつくる</p> <p>KPI:交流人口数(人) 1458,772(H26)⇒2,000,000(R2) [R1実績:1,926,000]</p> <p>道の駅やいた関連施設利用者数(人) 974,000(H26)⇒1,200,000(R2) [R1実績:1,282,000]</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

			2020年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容			①「片岡駅前イルミネーション事業」実施 ②地域住民の交流		①「片岡駅前イルミネーション事業」実施 ②地域住民の交流
事業費			0	0	0
市町支出金 (ソフト事業分)			0	0	0
うち県交付金			0	0	
市町支出金 (ハード事業分)			0	0	0
うち県交付金			0	0	
その他自主財源等	0	0	0	0	0

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	商工観光課 観光スポーツツーリズム担当
担当者名	阿久澤 大智
電話	0287-43-6211
FAX	0287-44-3324
E-mail	svoukou@city.yaita.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業収支精算書)

市町名	矢板市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	片岡駅前イルミネーション事業	
対象年度	2020	年度

1 収入の部

科目	精算額	備考
補助金	0	
負担金	0	
計	0	

2 支出の部

科目	精算額	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		県交付金			
報償費	0	0	0	0	
消耗品費	0	0	0	0	
光熱水費	0	0	0	0	
委託料	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調書)
【単独事業】

市 町 名	矢板市
事 業 名	矢板ふるさとガイド推進事業
事業主体の名称	矢板ふるさとガイド協議会
代表者の名称	会長 小川 保子
事業主体の所在	矢板市長井336番地
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・目的: 矢板市民や矢板市を訪れる観光客に、郷土愛とボランティア精神をもって、文化財や観光施設等を案内することにより、矢板市の魅力を広く発信し、観光振興を推進する。 ・設立年月日: 平成21年4月7日 ・構成員: 事業の趣旨に賛同する市民(会員数15名)
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>矢板市では、八方ヶ原をはじめとする豊かな自然と充実した交通網により、観光入込数は近年増加傾向にある。また、おしらじの滝や城の湯やすらぎの里キャンプ場など新たな観光コンテンツの造成により、市内の滞在時間が伸びている。その様な中、既存の文化財や観光施設についても、ホームページやパンフレット等によりそれぞれの魅力を伝えてはいるが、訪れた方々に寄り添いながら本物の魅力を伝える事が必要である。この事から、よりきめ細かな観光ガイドを行う仕組みが必要であり、当協議会の存在は一段と重要になっている。</p>
事業目的	<p>市内を訪れた観光客に対し文化財や観光施設のガイドを行う事で、観光客の満足度と市内へのリピート率の向上を目的とする。また、ガイドを住民が主体となって担うことで、地域への愛着を高め、地域資源に気づききっかけをつくる。</p>
事業概要	<p>①観光ガイド活動 ・各種イベント及び個別要請に応じて観光ガイドを実施した。(2回実施) ②道路観光案内 ・道の駅やいたにおいて道路観光案内を行った。(3日間) ③会員による研修(月1回) ・矢板の魅力発信をテーマとして研修を実施した。(2回実施) ④近隣市町との交流会・・・新型コロナウイルス禍の影響により実施を見送った。 ⑤文化財・史跡等の美化活動・・・新型コロナウイルス禍の影響により実施を見送った。</p> <p>【2021年度以降】 今年度は新型コロナウイルス禍の影響もあり、制限される中での活動となったが、次年度以降は上記内容および新規事業を検討しながら、住民主体による観光事業の促進を図る。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>目標: 来てもらう、住んでもらう人の流れをつくる KPI: 交流人口数(人) 1,458,772(H26)⇒2,000,000(R2) [R1実績: 1,926,000] 道の駅やいた関連施設利用者数(人) 974,000(H26)⇒1,200,000(R2) [R1実績: 1,282,000]</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	2020年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①観光ガイド活動(2回) ②道路観光案内(3日) ③学習会(2回) ④近隣市町との交流会(中止) ⑤文化財・史跡等の美化活動(中止)		①観光ガイド活動(随時) ②道路観光案内(随時) ③学習会(毎月) ④近隣市町との交流会 ⑤文化財・史跡等の美化活動
事業費	171,525	171,525	216,781
市町支出金(ソフト事業分)	30,000	30,000	100,000
うち県交付金	15,000	15,000	
市町支出金(ハード事業分)			
うち県交付金			
その他自主財源等	141,525	141,525	116,781

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	商工林業観光課 観光スポーツツーリズム担当
担当者名	斎藤 厚夫
電話	0287-43-6211
FAX	0287-44-3324
E-mail	svoukou@city.vaita.lg.jp